

《チャイルドラインデータ資料》 2023年度・第4四半期

【集計データから、子どもたちの状況を読み解く】

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

▶ 今期のテーマ「性の多様性」◀

▶ 2024年1月～3月のアクセス内容と分析 ◀

《第4四半期のテーマ「性の多様性」》

今回は「性の多様性」について調べました。チャイルドラインデータベースにおける「性の多様性」として分類している内容は、具体的には「LGBT、性的指向、性自認などに関するもの」となっています。近年、「多様な性」に関する法律制定や社会の議論が高まっていますが、このテーマについて子どもの声のデータからは何が見えるのかを探りたいと思います。

ここでのデータは、過去8年間の「電話のデータ」を集計し傾向をみています。また加えて、今回の主訴である「性の多様性」データは、同じ方が繰り返しアクセスしてきている可能性があり、それが他と比べても高い傾向にあると考えられるので、その点、ご注意ください。

◆ 「性の多様性」の年度別件数

2016年度から2023年度までの主訴が

「性の多様性の件数」です。毎年、400～700件近くあります。毎年の変動は、さまざまな要因がありますが、特に2019年度

と2020年度が700件近いのは、同一人物が繰り返しアクセスしてきたことによる増加（頻回）が考えられます。

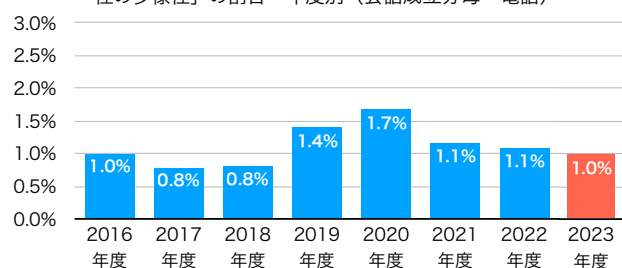
年度別「性の多様性」の件数（年度）

2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	期間合計
589	431	420	696	696	478	465	376	4151

◆ 「性の多様性」の年度別割合

2016年度から2023年度までの「性の多様性」の「会話成立」を分母とした割合推移です。2019年度と2020年度にやや上昇していますが、直近の2023年度はこの期間の平均に近い割合となっています（平均は1.1%）。

「性の多様性」の割合・年度別（会話成立分母・電話）



◆性の多様性の年齢割合

年齢の割合を見ました。中卒～18歳が65.9%と多く、次に中学生18.2%、小学校高学年3.8%となっています。「会話成立」との比較では、性の多様性の「中卒～18歳」の割合が高いことがわかります。

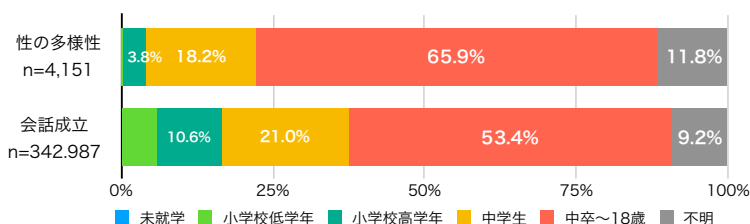
他の団体による調査*によると「L G B Tであるかもしれない気がついた年齢」は、中学校1・2年生が最多でした。チャイルドラインの「性の多様性」の年齢が中卒～18歳（つまり高校年齢）に多いのは、多様な性に関する気づきがあり悩み始めるのは中学生でも、誰かに相談したりつながったりできる段階になるのは高校年齢からというタイムラグも考えられます。

また、直近1年と、それ以前とで変化があるのかについても集計しました。2016-2022年度と2023年度と比べ、中卒～18歳の割合がやや減少し、中学生割合が増加している傾向にあります。現時点ではこれ以上の詳細はわかりませんが、相談する年齢層がやや低くなっている可能性も示唆されます。

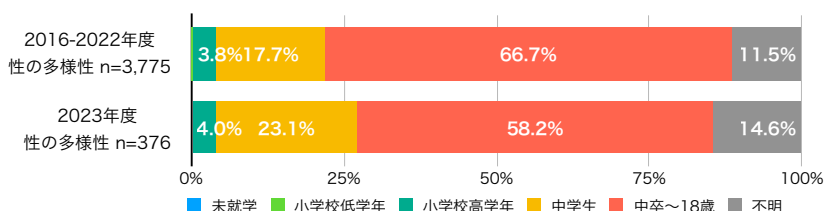
私たちが調べた範囲では、多様な性の当事者が、相談窓口などに相談しはじめる年齢については他の文献があまりみられませんでしたので、上記の「第三者に打ち明けた・つながった年齢」データは注目したいところです。

※参考：「L G B Tの学校生活に関する実態調査(2013) 結果報告書」 いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン 2014

「性の多様性」項目の年齢内訳割合（比較）
(2016-2023年度・電話)



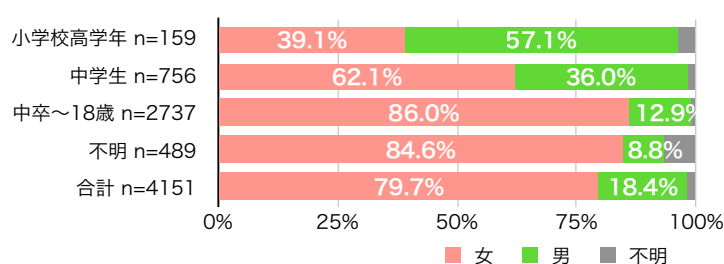
「性の多様性」項目の年齢内訳割合
(2016-2022年度と2023年度比較・電話)



◆性の多様性の性別×年齢

性別と年齢の相関を見てみると、小学高学年以外は女子が多くを占めています。特に、高校年齢（中卒～18歳）と不明で女子割合が高く、8割以上にもなりました。また2023年度とそれ以前の期間においては大きな変化はありませんでした（グラフ省略しました）。

「性の多様性」項目の性別×学年別 内訳割合
(2016-2023年度・電話)

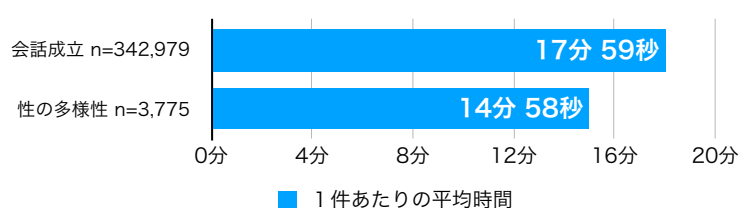


◆性の多様性の平均通話時間（比較）

通話時間は、全体を示す「会話成立」に比べて「性の多様性」は14分58秒と短くなっていました。

これに関する明確な理由はわかりませんが、自分の性に関する違和感を持つ子どもが「葛藤を抱えている状態」でアクセスしてくることが考えられます。多くは、その状態を言葉にして表現しづらい状態にあるからこそ、短時間となる場合（つまりすぐ切ってしまう）

性の多様性・会話成立の平均通話時間比較
(2016-2022年度・電話)



は考えられます。ただ、自己の認識や葛藤は当事者によってさまざまですので、ケースによって通話時間の違いはあるものと考えられます。

※前回の3ヶ月データと今回のデータの「会話成立の平均通話時間」に数秒の違いがありますが、これは、エラー値を排除して再計算したことによるものです。

※グラフの集計期間は、今回は2023年度の集計作業が煩雑になるため、2022年度までとしました。

◆「気持ち」に関する傾向

「気持ち」項目を集計しました。

比較的、それぞれの項目が分散していますが、「葛藤・迷い・戸惑い」が一番多く、次いで「不安」「困惑・困っている」「つらい・苦しい」が続いています。

また、直近の2023年度とそれ以前の期間を比較すると、2023年度に「葛藤・迷い・戸惑い」がやや増加し、「困惑・困っている」「イヤだ」がやや減少していますが、それ以外はおおむね大きな変化はないものと思われます。

次に「会話成立の『気持ち』」の各項目を分母とした性の多様性割合です。会話成立全体からみた「性の多様性」の割合は「1.1%」（グラフ項目では「合計」と表記）となっていますので、これを基準として「気持ち」の各項目を比較すると、「葛藤・迷い・戸惑い」3.0%、「人目が気になる」2.5%と、この2項目がややポイントが高くなっていて、「楽しみ・期待」1.6%、「傷つきたくない」1.5%の2項目がわずかですが、ポイントが高い傾向にありました。

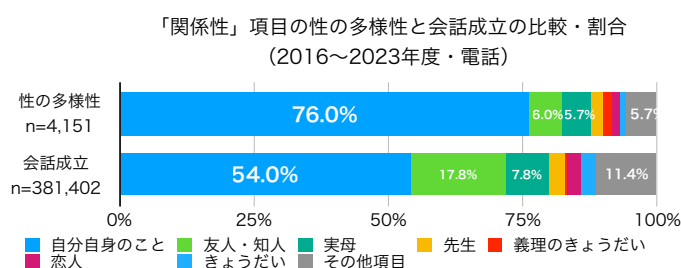
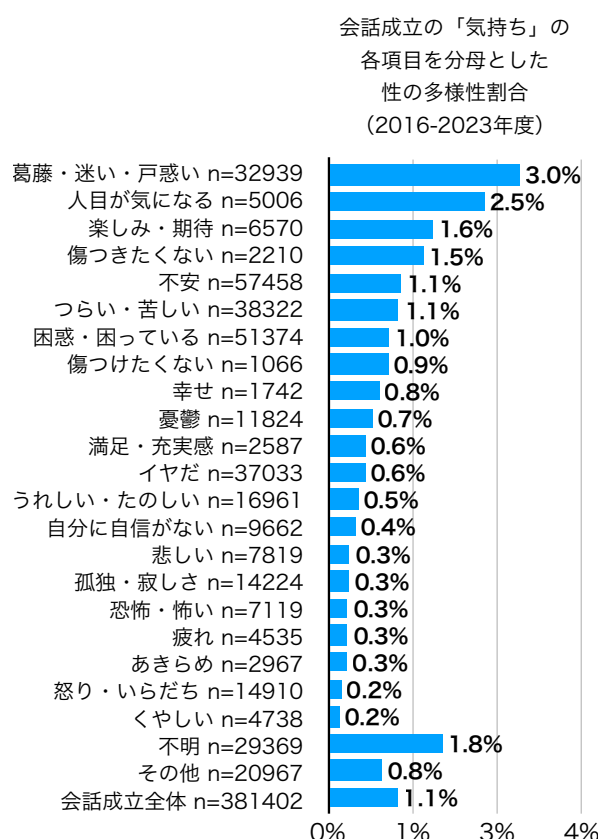
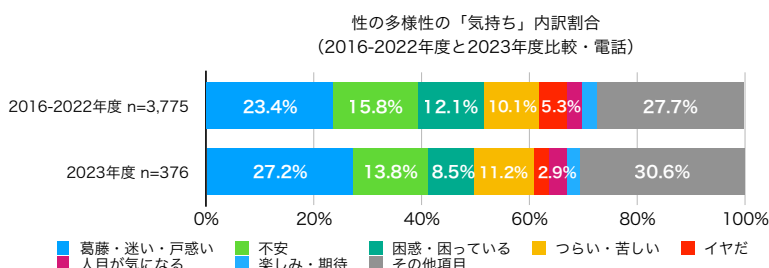
一方、低くなっているのは、「くやしい」「怒り・いらだち」0.2%、「あきらめ」「疲れ」「恐怖・怖い」などの項目が0.3%となっていました。

前の項目で紹介した調査では「自分自身がLGBTであることを話さなかった理由」として「理解されるか不安だった」「話すといじめや差別を受けそうだった」などの回答が複数の属性で6割程度いるとの回答もあり、それが「葛藤・迷い・戸惑い」や「人目が気になる」などの割合の高さに関係している可能性もあると考えられます。いずれにせよ、さらなる調査分析が必要です。

◆関係性

「関係性」項目を集計しました。「自分自身のこと」が多くの割合として占めています。続いて「友人・知人」「実母」の関係と続きます。

会話成立との比較では、「自分自身のこと」が「性の多様性」のほうが高く、大きな



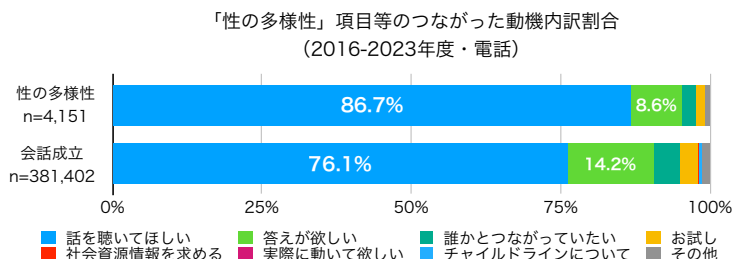
開きがあります。逆に「友人・知人」が性の多様性は低い傾向もあります。「自分自身のこと」が多い背景には、直接むすびつけることはできないものの、自分の性に関する違和感を他者へ打ち明けにくく、より内面的な葛藤を抱えている状況・背景もありそうです。

◆つながった動機

つながった動機について集計しました。

「話を聴いてほしい」が会話成立同様8割近くを占め、会話成立よりも高い割合となりました。一方で「答えが欲しい」は、会話成立と比較すると5.7ポイント低くなっており、違いが見られます。

「気持ち」や「関係性」にも関連しますが、より深く聴く受けとめていく姿勢が求められているように思います。



◆まとめ

チャイルドラインにつながる子どもたちが訴える「性の多様性」は、2016年からの8年間では2019年度と2020年度がやや多い傾向にありましたが、おおむね1%程度の割合であることがわかりました。

年齢は、「中卒～18歳」の割合が高いですが、「会話成立」との比較でも、さらに高校年齢の割合に違いがでており、誰かに相談することのできる年齢の傾向として表れているとも考えられます。2023年度の傾向は「中学生」が少し割合が高くなっていました。

性別は、「女性」の割合が高い傾向でした。特に年齢を重ねるにつれ、女性割合が多くなっていくのが特徴で、中卒～18歳では女性が8割以上を占めました。

平均通話時間は、会話成立全体よりも「性の多様性」が「14分58秒」と短くなっていました。いくつかの背景が考えられるものの、アクセスする子ども自身の性自認や葛藤度合いによって状況は変わってくる可能性があります。

気持ちは、少し深掘りしました。「葛藤・迷い・戸惑い」「不安」「困惑・困っている」「つらい・苦しい」で分散している傾向にあり、複合的・重層的に悩みがある可能性が見て取れます。また、「会話成立を分母とした気持ちの各項目割合」を見てみると、「葛藤・迷い・戸惑い」「人目が気になる」が平均よりやや高い傾向にありました。自己の性自認が理解されるか不安、いじめや差別を受けそうだったなどの傾向が他の調査で示されているので、関連して考える必要がありそうです。

関係性は、会話成立全体と比較しても「自分自身のこと」の割合が高くなっていました。まずは自分自身に関する葛藤や戸惑い、不安があり、他者との関係以前の悩みとしてアクセスしてきている可能性も考えられます。

つながった動機は、「話を聴いてほしい」割合が、会話成立全体（76.1%）と比較しても高い傾向（86.7%）となりました。「気持ち」や「関係性」にも関連しますが、より深く聴く、受けとめていく姿勢が求められているように思います。

今回のテーマである「性の多様性」は、子どもにとってもますます重要なテーマであると言えます。特に、チャイルドラインにおいては、性自認が明確な状態の子どもからのアクセスだけでなく、「あいまいで葛藤や不安を抱えた状態の子どもたち」という子どもたちが多いという前提認識も必要です。わたしたちの活動としては、日頃からLGBTQ+に関する知識や理解について研修をおこなってきているところですが、継続して深め続けるための環境づくりが今後も重要と言えます。

◆**子どもたちの声** ※個人が特定されないようプライバシーに配慮して再構成しています。

▶ 外見は男だけど気持ちは女。周りには知られたくない。カミングアウトできない。

▶ 女性だけど男性になりたい。小4の時から思い始めて、今は中学生。スカートの制服を着ていると孤独に感じる。心がズキズキしてずっとつらい。

▶ 中身が男子。死にたい、産んだ親も殺したい。学校で「僕」と言うことからかわれるし、男子と話していると媚びをうっていると言われる。

▶ 外見は男だけど、中身は女。誰にも知られたくないから、うそをついて学校を休んでいる。

▶ 身体は女の子、気持ちは女の子。スカートが苦手で、男子の服装をしたい。それをお母さんに伝えたい。どう言えばいいかな。

▶ 友だちだと思っていた子から遠回しに好きだと言われた。僕は女の子が好き。どうしたらいいんだろう。

▶ 私の体は女で、自分のことを女だと思っています。恋愛対象は基本男の子です。でも、ワンピースなど女物の服を着たくなる時もあれば、ズボンにシャツといった男の子っぽい服を着たい時もある、なんだか精神が不安定です。

▶ 私は♀?だけど♀?って言われると違和感があって、かといって♂?になりたいのかと言われるとちがう。恋愛対象はどっちも。なんなんだろうね。

▶ 自分の性別が嫌いで嫌いで…助けてよ 死にたいよ 苦しいよ リスカがやめられない生きる意味ってなに つかれたの 生理が来たら必ず崩れ落ちるほど泣いて 辛くて 自分がおかしいだけかもしれないしどうすればいいんだろう。

▶ 何でこの世界って性別が生まれた時から決まっていて、自分は女子だけど、自分的に女子って思っていないって言ったらそれはおかしいって思われるんだろうね。

▶ 自分の性が分らないです。xジェンダーか、女性か、バイセクシャルか、異性愛者か、分らないです。変な憧れかもしれないし、本当に少数派の性自認の人かもしれない。自分がもし少数派の方だったら、周りは受け入れてくれるのかな？

《データ資料概要と注意点》

2024年1月～2024年3月のアクセス内容、データベースを集計し分析

チャイルドラインに寄せられた子どもたちの声にどのような傾向があるのか。チャイルドラインにおける“データベース”等を基に、集計しました。

- ・ 期間：《2023年度・第4四半期》2024年1月～2024年3月（速報値）
- ・ データ集計日：2024年5月2日

- ・ 集計数（分母）：

【トラフィックデータ】（発信件数・今回使用したデータのみ掲載）

	10月	11月	12月	3ヶ月計	1月	2月	3月	3ヶ月計
2022年度					31,910	30,121	30,318	92,349
2023年度	30,771	32,434	29,738	92,943	31,796	29,898	26,134	87,828

【データベース】（件数・今回使用したデータのみ掲載）

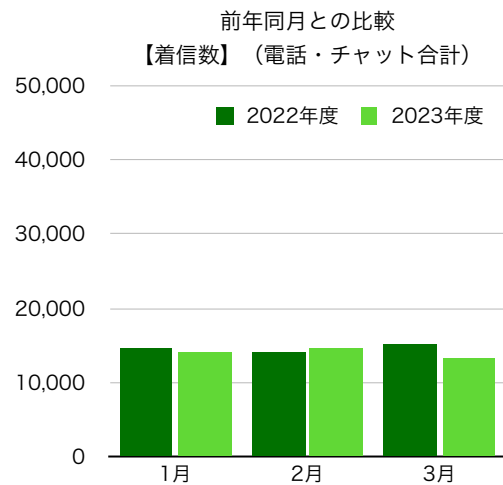
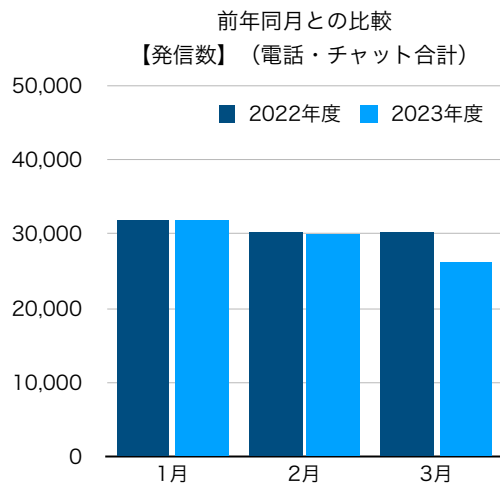
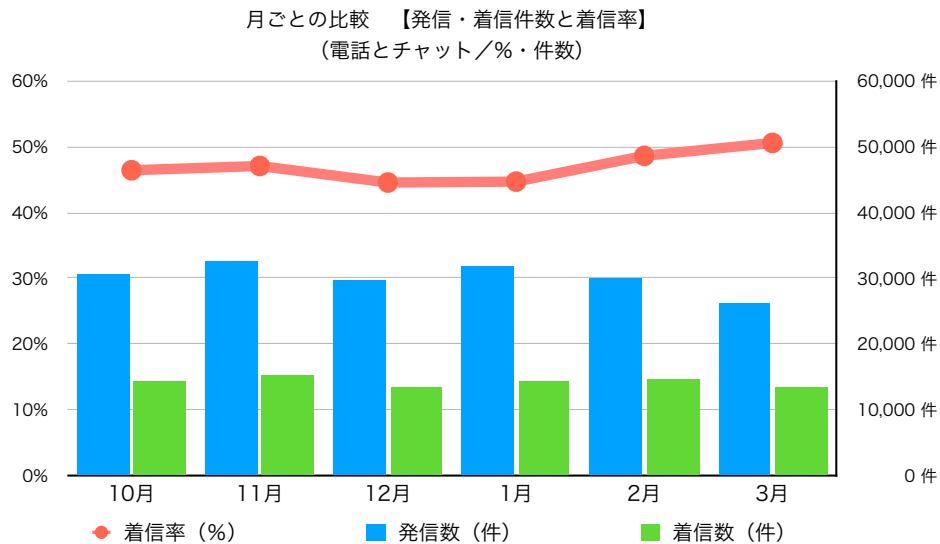
	1月	2月	3月	3ヶ月計
2022年度（全体）	12,529	11,147	13,441	37,117
2022年度（会話成立）	3,755	3,869	4,080	11,704
2023年度（全体）	13,163	12,965	13,772	39,900
2023年度（会話成立）	3,930	4,024	4,114	12,068

※（全体）は会話成立、会話不成立、無言等を含んだ全体集計数 ※他資料とはデータが異なる場合がある。

- ・ 表記の定義：
 - 「％」＝上記項目の分母（集計した数）の割合
 - 「件」＝データベースに入力されたアクセス・会話件数
 - 「ポイント」＝パーセントポイント（他の％をポイントとして比較）
- ・ データの種類：【トラフィックデータ】電話＝NTTコミュニケーションズ、チャット＝AI.BiSから取得
【データベース】電話・チャット＝「受け手」が感じた内容を子どもが特定できないようプライバシーに配慮し、データベースとして集積
- ・ データの性質：データの誤入力や重複、未入力データがある等、今後、修正が生じる可能性があるため、「速報値」であることを前提として扱う必要がある
- ・ データの注意点：各データの小数点をまとめる際に集計上の誤差が生じるため、グラフのデータと他のグラフデータに数字の違いが生じる場合がある
- ・ 報道関係の皆様へ：この資料でのデータは速報値で、今後、集計結果が変わる可能性があります。
データ・資料について取材、引用の際は、チャイルドライン支援センター（連絡先最終ページ）までご一報ください。

《トラヒックデータ／発信数・着信数》

トラヒックデータの発信数・着信数（電話とチャット）は、この3ヶ月では、発信数が3月にやや下がった。6ヶ月の推移を見てみると、着信率が2月と3月やや上がった。
前年同月との比較では、3月の発信数がやや減少、着信数も少し減少した。

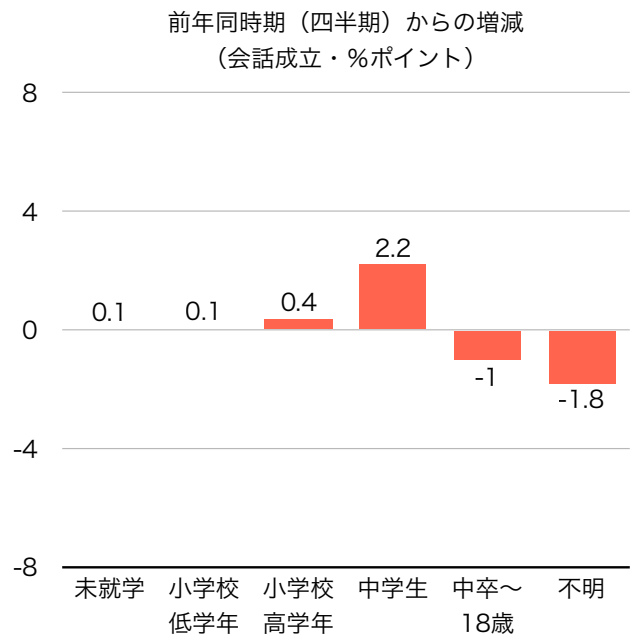
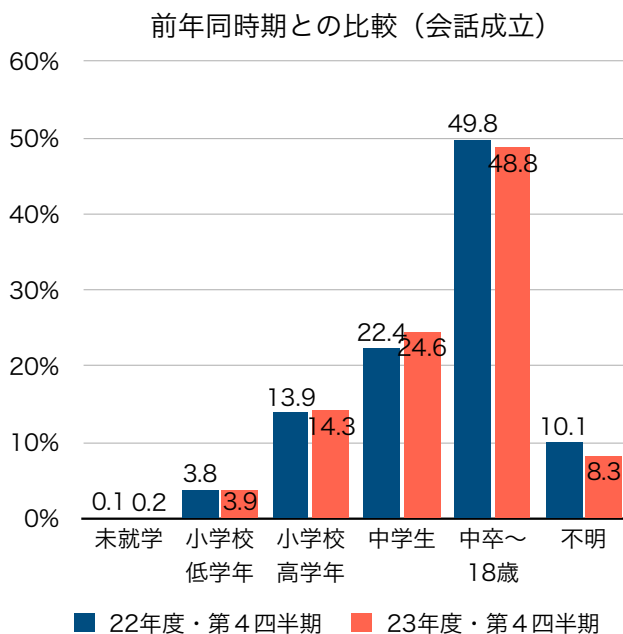
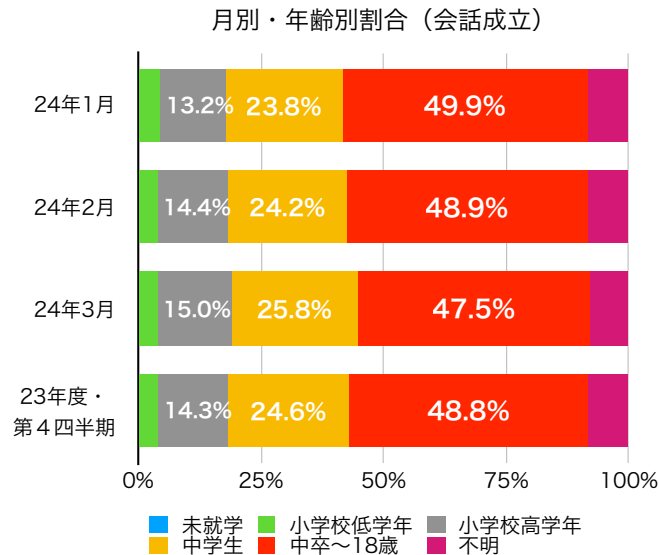


《データベース・年齢（会話成立）》

ここからはデータベースの「会話成立」（電話とチャット。以降のデータも同様）に絞ったデータを紹介する。まず「年齢」別の集計から。

年齢の割合は、3ヶ月通じて高校年齢割合が多く（約5割近く）、月別割合は小学校高学年と中学生が1月～3月にわずかに増加傾向だった。

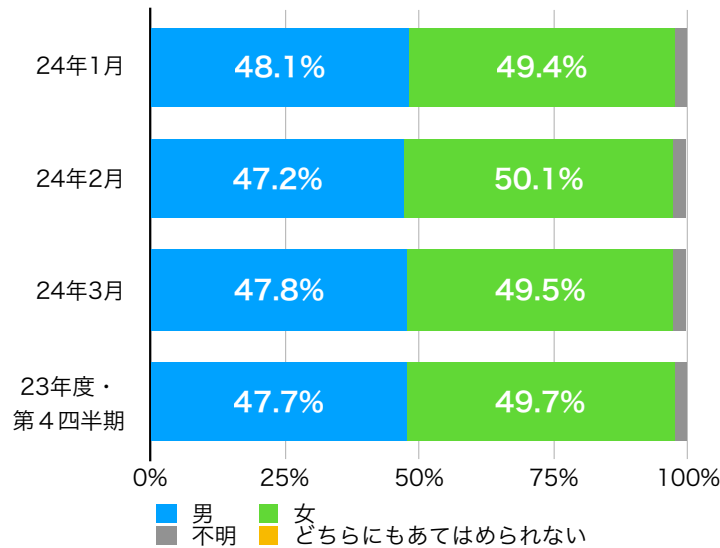
前年同時期からの増減は、中学生がやや増加し、不明がやや減少した。



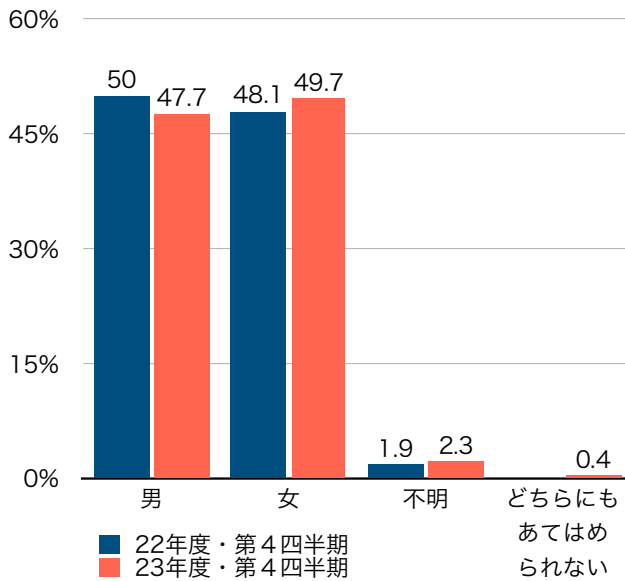
《データベース・性別（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「性別」を集計した。男女ともに割合に大きな変化はない。前年同時期との比較では、男性が減少し、女性がやや増加した。

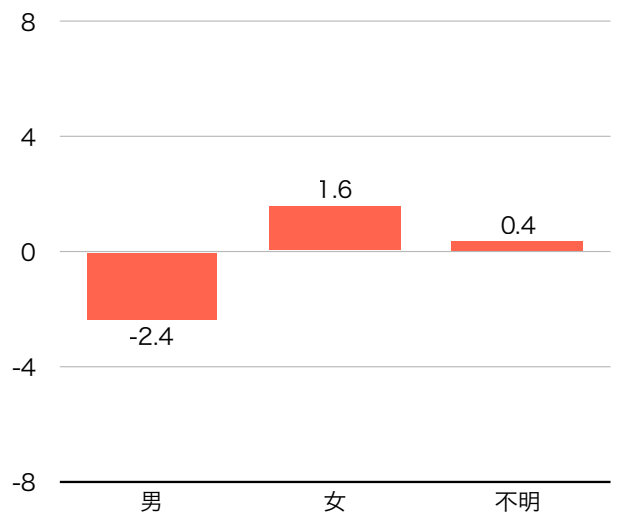
月別・性別割合（会話成立）



前年同時期との比較（会話成立）



前年同時期（四半期）からの増減
（会話成立・%ポイント）

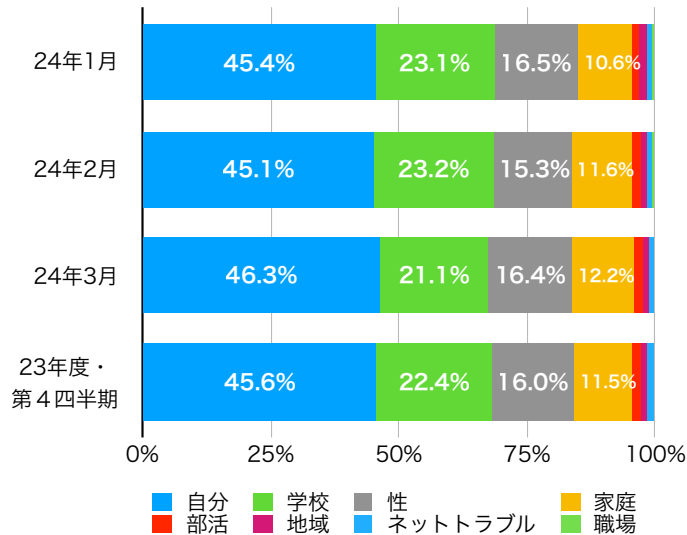


※「どちらにもあてはめられない」は2023年度から新たに項目を追加しました。また「受け手」が子どもの様子や話の内容等から、男女以外の性が推察される場合に選択する形となっています。

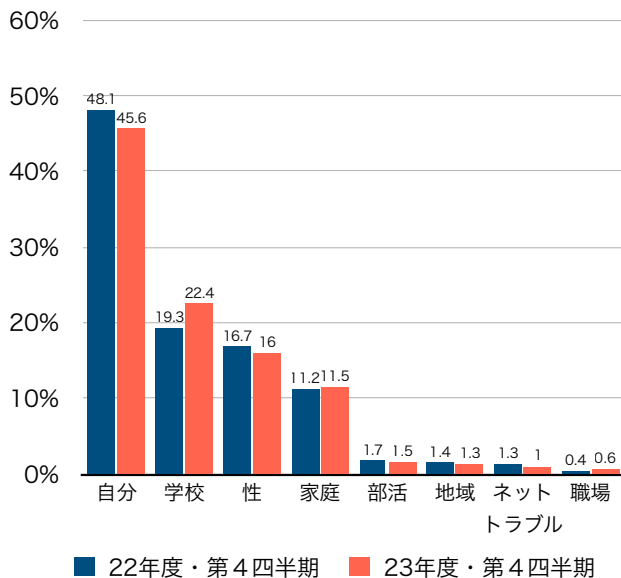
《データベース・主訴【大項目】（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「主訴【大項目】」を集計した。割合の違いがそれぞれの項目で多少あった。前年同時期との比較は、「自分」がやや減少、「学校」が増加した。

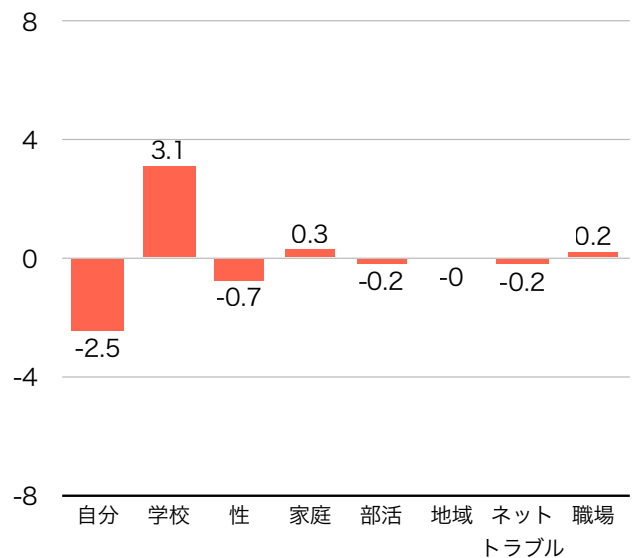
月別・主訴別割合（会話成立）



前年同時期との比較（会話成立）

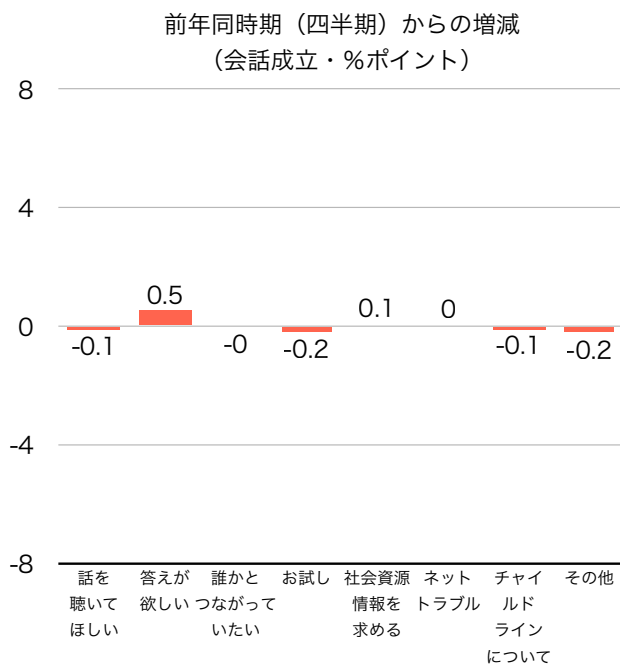
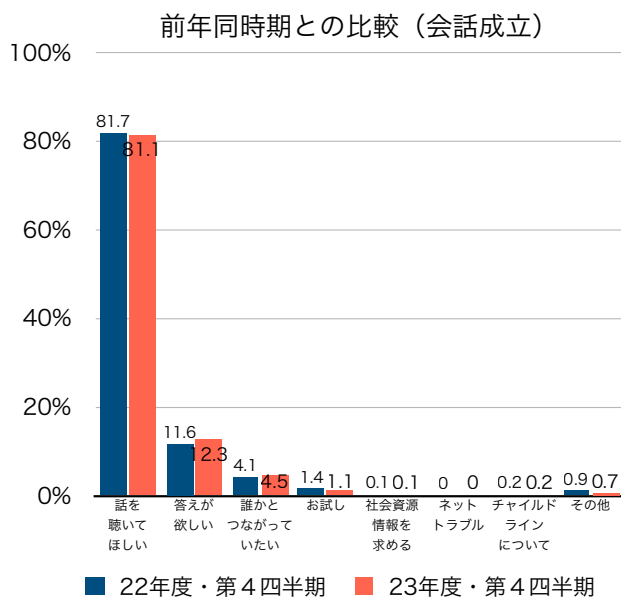
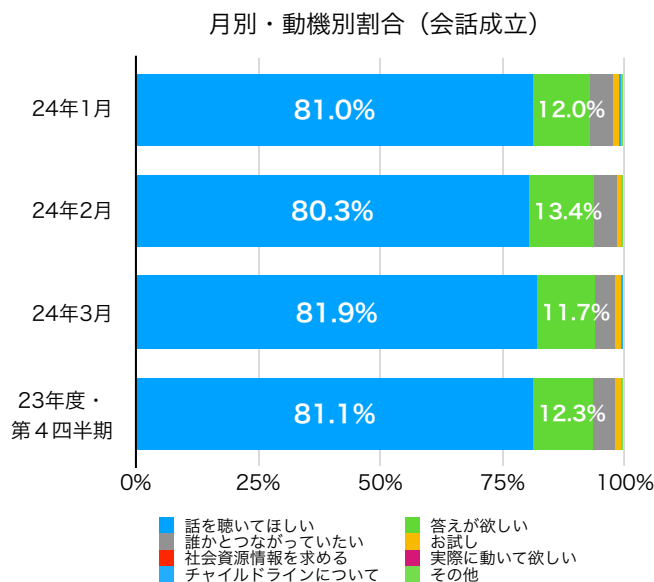


前年同時期（四半期）からの増減
（会話成立・%ポイント）



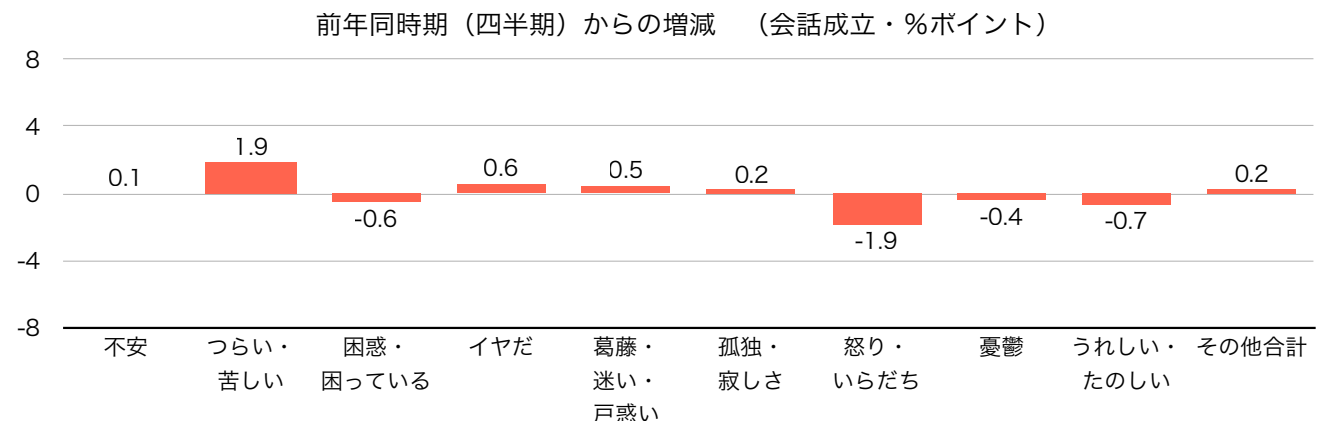
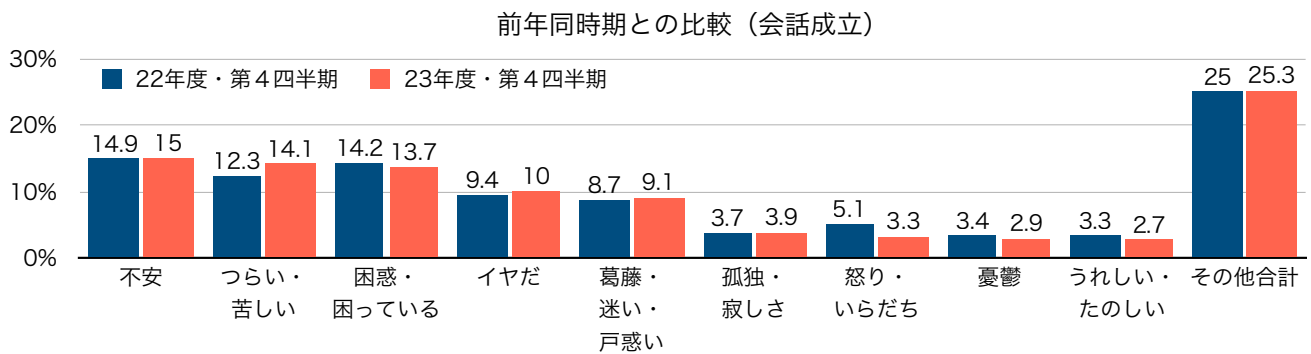
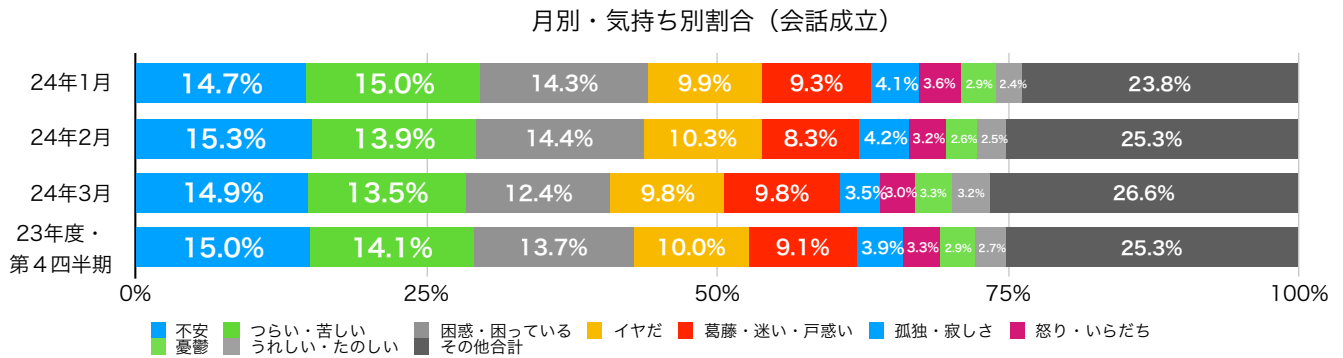
《データベース・動機（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「動機」を集計した。全体として「話を聴いてほしい」が大きな割合を占めている。前年同時期との比較は、大きな変化はなかった。



《データベース・気持ち（会話成立）》

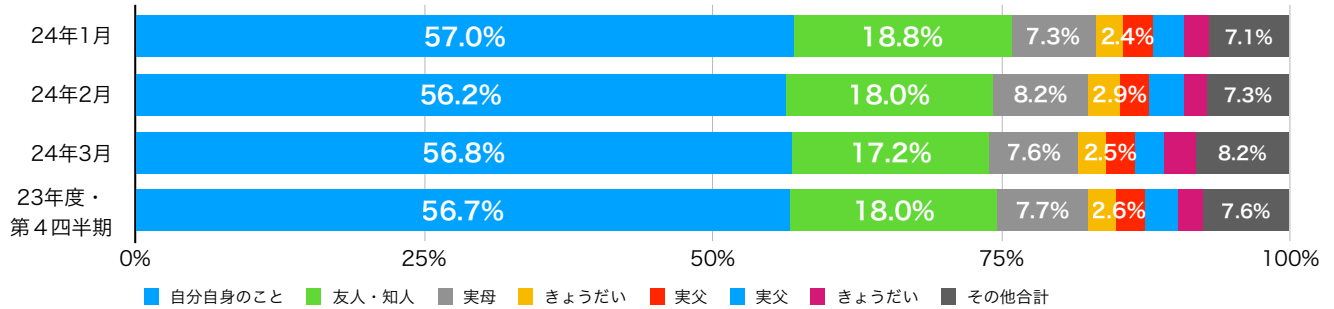
データベースの「会話成立」の中の「気持ち」を集計した。月別割合は3月に多少の変化が見られる。前年同時期との比較においては、「つらい・苦しい」が少し増加し、「怒り・いらだち」が少し減少。それ以外の大きな変化はなかった。



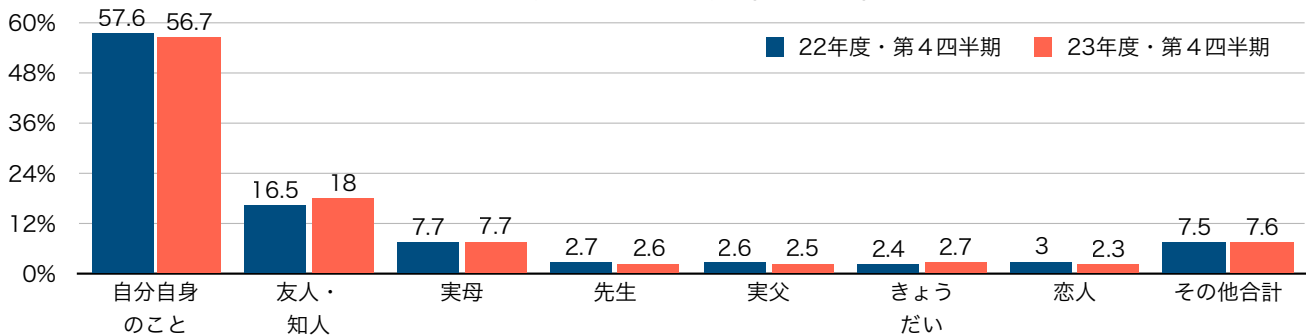
《データベース・関係性（会話成立）》

データベースの「会話成立」の中の「関係性」を集計した。全体として「自分自身のこと」の割合が多い。月別では、やや変化がある程度だった。前年同時期との比較は「友人・知人」が少し増加した。

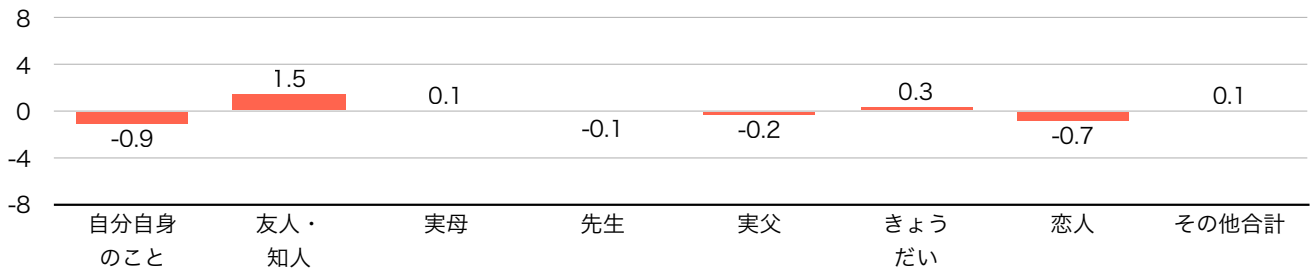
月別・関係性別割合（会話成立）



前年同時期との比較（会話成立）



前年同時期（四半期）からの増減（会話成立・%ポイント）

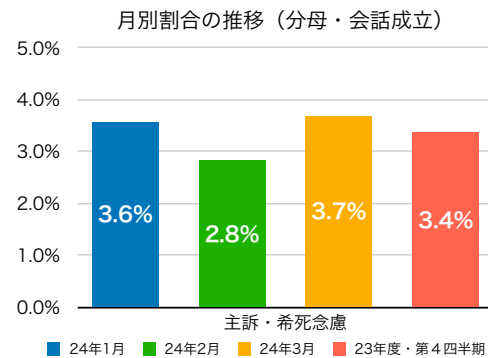


《データベース・「希死念慮を主訴とするもの」（会話成立）》

データベースの「会話成立」のうち、「希死念慮を主訴とするもの」を集計した。集計数が少ないので参考値。ただ、前期（10月～12月）から140件程度増加している。月別割合の推移は、他のページと違い、グラフ数値を拡大している。

希死念慮を主訴とするものの件数

年月	件数
24年1月	129件
24年2月	106件
24年3月	142件
合計	377件

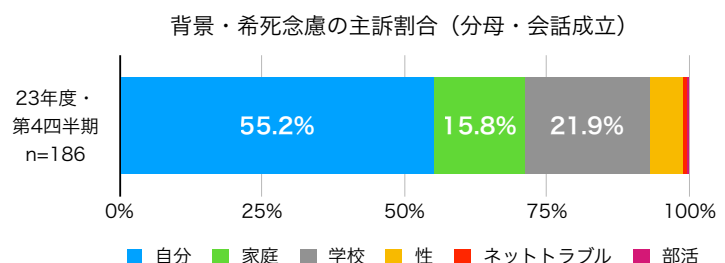


《データベース・「希死念慮が背景にあるもの」（会話成立）》

データベースの「会話成立」のうち、「希死念慮が背景にあるもの」を集計した。主訴の割合では、自分、家庭、学校が多い。

背景に希死念慮がある件数

年月	件数
24年1月	72件
24年2月	67件
24年3月	47件
合計	186件



《「つぶやく」に寄せられた声の傾向》

こちらは、ウェブページ上の「つぶやく」に寄せられた声を集計したもの（属性などは自己申告・記入）。1月から3月につぶやかれた件数は、4,129件。さまざまな内容、性別、年齢の子どもから利用されていることが分かる。

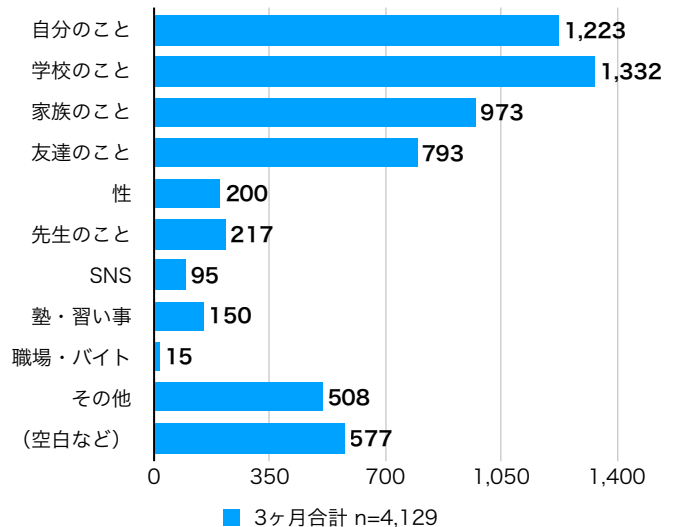
つぶやいた内容のジャンルは、順に「学校のこと」「自分のこと」「家族のこと」「友達のこと」「空白など」となっている。性別は「女性」が圧倒的に多い。

また、年齢は、概ね10歳から14歳ぐらいまでが約11～17%と最も多い。

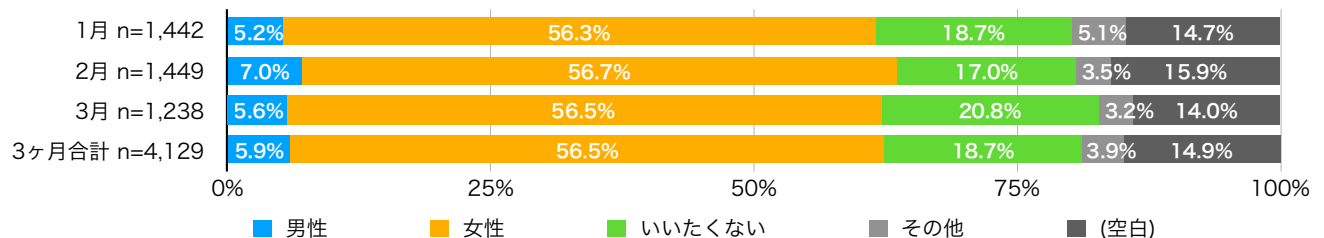
つぶやきに書き込みがあった総数

1月	2月	3月	合計
1,442件	1,449件	1,238件	4,129件

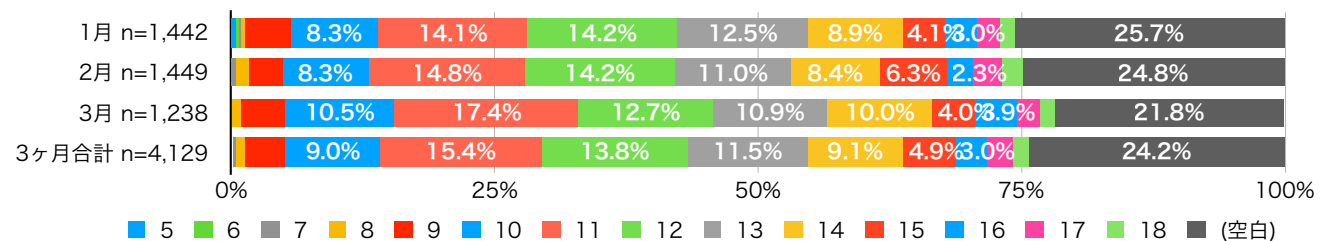
【つぶやく】テーマ別・複数選択



【つぶやく】月別・性別割合（全体）



【つぶやく】月別・年齢割合（全体）



【この資料に関する問い合わせ】

制作・著作：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5F

メール：info@childline.or.jp 電話：03-5946-8500

ウェブサイト：<https://childline.or.jp/>